

「幼稚園教育」

——教育大體講座第九卷——

幼児教育に對する體系的な書物は戰後まだ出版されていないといつていゝである。文部省で編さんした保育要領が唯一のものである。幼児教育の重要性が唱えられているのに體系的な幼児教育の書が出ていないのは何といつても殘念なことで、あつたが、この度教育大學講座

の第九卷として『幼稚園教

育』が刊行されたことは幼

ある。

この書は四つの論稿を含んでいる。小川正通氏の『幼稚園教育論』梅根悟氏の『幼稚園のカリキュラム』田中熊次郎氏の『幼稚園の運営』石上秀雄氏の『遊戯と構成活動』の四編である。

小川氏の幼稚園教育論は、幼稚園教育の重要性、幼児観の進展と幼児教育、家庭幼稚園教育の本質、幼稚園教員の現職教育の各章から成り、現在における幼稚園教育の概

觀と方向つけとが充分に與えられている。

梅根氏の『幼稚園のカリキュラム』には幼稚園カリキュラムの現状、幼稚園カリキュラムの内容、幼稚園カリキュラムの構造の三章が設けられているが、保育要領の検討からはじまり、現在我が國の幼稚園に用いられているカリキュラムの分析が丹念になされて居て、最後にその行くべき方向の指示がなされている。保育要領の解釋やカリキュラムの取扱いについて評者は若干の疑問を持つているが、現在幼児教育者の關心の中心に在るカリ



について教育學者の立場からこれだけ縝密に説かれたものはない。この意味において幼児教育者の必ず讀むべき文献だといつていいであろう。

田中氏の『幼稚園の運営』には、ブリ・

エレメンタリー・エデュケーションの發展幼稚園の環境・施設および設備、保育計畫とその實施、健康保育と家庭、幼児研究と記録の各章がおさめられている。學藝大學附屬幼稚園主事としての豊富な経験に裏づ

けられた具體的な研究資料が澤山盛られてゐるのはうれしい。最後に研究と記録についての指導が與えられている。筆者の研究的態度は幼児教育者の學ぶべき點であると思う。

石上氏の『遊戯と構成活動』には、幼児の教育と遊戯、幼児における遊びの意義、遊びの教育的價値、幼児における遊びの種類、興味をもつ遊びとその道具、構成遊びの内容、構成遊びと構成活動、構成活動の効果の各章が含まれている。遊びに關する研究の主なものが紹介されて居り、構成活動の意義が最後に述べられている。

以上はこの書の簡単なスケッチである。

この書によつて日本の幼児教育は一步前進するであろう。幼児教育者必讀の書として一讀をすよめたい。

(金子書房刊行 定價三五〇圓)

(山 下 駿 郎)